

2024年度 横浜美術大学 障害学生支援に関する取り組み

学生の個々の障害や病気等の特性・留意点・対処方法等について、研究室で定期的に行う打ち合わせや連絡ノートを通して専任教員・非常勤講師・助手・副手の全員で共有し、当該学生が特別扱いとならないよう配慮しつつ、それぞれ必要な支援を行っています。なお、必要に応じて保護者との連携を図っています。

2024年度は一部遠隔授業を実施しましたが、基本的には対面(登校)授業で授業を行ったため、コロナ禍前と同様に、ノートテイク等で情報保障を実施しました。また全授業でGoogle Classroomを活用し、教員との連絡手段を増やすことで、今まで以上に丁寧な状況把握と個別指導対応に努めました。

取り組み事例	
全学的な対応	<ul style="list-style-type: none">・Google Classroomを活用し、教材の見直しや、教員との個別連絡を可能としている。・言葉や文章で理解できない場合、絵や図を用いて説明している。・断定的な表現を避け、肯定的な表現を用いるようにしている。
配慮申請学生への対応	<ul style="list-style-type: none">・本人の意思をできるだけ尊重し、別途課題や補習を課す等、体調に合わせて無理のないよう受講させている。・助言や指導の際には断定的な表現を避け、肯定的な表現を用いるようにしている。・授業の動画や映像資料に字幕を付ける、あるいは文字資料等を配付するなどの対応をしている。・言葉や文章で理解の難しい事柄について、可能な場合には絵や図を用いて説明している。・(聴覚障害学生に対して)チャット等で、話者の発言をリアルタイムで提供している。・希望者に対し、字幕・文字資料等を配付している。